

# いしゃ先生

▶17 あべ 美佳

町おこし映画顛末記

己の人生を後回しにし、  
僻地医療に尽力した女医・志田周子の半生を描く映画「いしゃ先生」。その舞台となつてゐる西川町は人口約6千人。同町の町立病院では昨年度、医師の数が定員に満たず、内科医たつた1人という大変な状況だつたそうだ。町では必死に医師探しをし、この春、待望の内科医がやってきた。渡辺先生、27歳。医師になられて3年目で、町民は彼のことを「現代版・いしゃ先生がやつてきた」と噂している。これは会いに行がねばな。

お目にかかると確かに、もないと。正直に言葉を選ばず話してくれる姿は本当に神々しく、だんだん拌みだしてしまつ町民の気持ちは理解できた。志田周子は26歳、ぐなつてくる。世の中には

こと。そして凜とした美しい女性であること。なるほどなあ、確かに似ているところはある。渡辺先生は、僻地医療を志した理由を「おじいちゃんたちが好きだから」と答えてくれた。「医師がちょっとでも足りない所に自分が行きたい」。

渡辺先生は27歳でこの土地にやってきたこと。待ち望んでいたお医者さまである

「いしゃ先生」が現れるのが期待してしまつかも

「豪雪対策本部」の看板を見て大きなカルチャーショックを受けたという。「滋賀県と山形県は縁が深い

身。初めて西川町にやつてきたのが今年3月の終えれば、人々はまた「いしゃ先生」が現れるのが現れるの

が現れるの

「今日はどうされましたか？」、「先生、ないだが、げしょらげしょらしてよ」、「……げしょら？」、「……ちよつとスマセン、看護師さーん！」。看護師さんに通訳してもらひながら、渡辺先生は今日も頑張つてゐる。まるで異国の地だべな

ことだ。渡辺先生のことを守らなくちゃ、と心から思う。先生に健康を守つてもいいふつもこんなふうに答えてくれた。「彼女（志田周子）は本当に強い人だと思いま

す。今の自分だと考えられました。今自分が決意を新たにしたことがある。それは



## 「現代のいしゃ先生」守ろう

（脚本家・作家、尾花沢市出身）

II月1回掲載します